

れを無視して、作業規律を破壊するものではない。職員の如き技術者の生産に對する役割りの重要な事は、我等のよく認め且尊敬する處である。が工場内の秩序を保つこと、労働者の人格權を無視することとは決して同一ではないのである。日本の工場に於いて一般的に云はるゝ事は從來余りに労働者の人格權が蹂躪せられ、而もそれが當然の如くに見なされた例があるので、労働組合による労働者の人格權復活が、労働者の横暴の如くに見なされる恐れがある。又労働者も労働組合力を頼つて、不當に秩序と規律とを紊ることも多く見受けるところである。かような状態が、最も多く接觸の機會を持つ處の、職員と一般労働者との間に醸さるゝならば、團體交渉の前途に紛争を惹起する因ともなるのである。

我國の産業界を見るに、資本家階級は飽くまで頑迷にして、無謀なる壓迫を労働組合に加へつゝある。かくの如くは労働組合亦、深き怨恨を抱いて闘争の爲めの闘争を行ひ、革命的労働組合主義は大勢を支配するに至るであろうと察せらるゝのである。是れ日本の國家社會の爲めにも決して樂觀すべき現象ではないのである。

我日本労働總同盟は、頑迷なる資本家に對しては徹底的闘争も亦辭するものではないけれども革命的手段に訴へんとするが如き矯激なる労働組合の指導精神は斷乎として排除するものである。労働組合は理論ではない。労働組合は労働者の生活に即すべきである。

我製鋼労働組合は、純然たる社會正義の見地より、労働階級の進路を發見せんとする理想を持つ。製鋼労働組合が、あらゆる困難を排除して健全なる發達を遂げることが出来たならば、これ混沌たる我國労働組合運動の上に、一道の光明を投げ與へるものであることを確信する。かくの如くにして、労働者が、其労働條件を改善し、社會的地位を向上せしめ得るのである。しかし亦かくの如くにして始めて労働者解放の大義も、一般國民の責任ある輿論の支持を受け得るといふ信じて疑はぬ。

労働者の理智と、資本家の誠意と相俟つて我製鋼労働組合が堅實なる労働組合として進むべき路に進ましめよ。

是れ我等の希望である。